

市民講演会 in 新宮

『「薬」や「手術」に頼らない医療・治療を考える』

～自然治癒力を高めて健康で豊かな生活を過ごしませんか？～

日時：平成 24 年 11 月 18 日 (日)

受付開始 9:30、講演 10:00 ～ 12:00 入場料無料 (定員当日先着 100 人)

場所：ステーションホテル新宮 6階多目的ホール Tel:0735-21-2200

(JR 新宮駅より徒歩 4 分 / 駐車場 50 台無料)

「オゾン」と聞くと、多くの方が近年よく耳にする『オゾン層の破壊』などをイメージされます。実は、そのとおりで大気中では成層圏に存在し、降り注ぐ有害な紫外線から私たちの身体を守ってくれており、地球上に棲む生物にとって、とても重要な役割を担っているのです。それだけではなく、オゾンは殺菌効果や殺ウイルス効果も確認されており、ドイツで 100 年前から実施されている『オゾン療法』は、第一次世界大戦時から負傷した兵士の命を破傷風や赤痢などの細菌性伝染病から守ることから、世界中でその真価が認められています。また水と電気さえあれば誰でも簡単に作ることができるオゾン水は、医療施設や薬品が不足している災害時などには非常に有効となります。実際に、2011 年 9 月に起こった紀伊半島水害時にはオゾン水生成器を利用することで、大勢の被災者の方々を救いました。オゾンは地球の生命体を守るために存在する大自然エネルギーです。これを正しく身体に作用させることにより、人間が本来持っている自然免疫力を高め、薬や手術に頼らずに病と闘うことができると考えられています。このような様々な場面で活躍する『オゾン』の不思議な働きをご紹介します。

プログラム

10:00 オープニングの挨拶 日本医療・環境オゾン学会 会長 三浦 敏明

10:05 ～ 10:45 オゾンの不思議な働きについて 日本医療・環境オゾン学会 理事
臨床研究部会 部会長
日下診療所 日下 史章



10:45 ～ 11:10 交流磁気治療とオゾン療法 日本医療・環境オゾン学会 理事
阿蘇立野病院外科 上村 晋一



11:20 ～ 11:40 オゾン療法とプラセンタ療法 日本医療・環境オゾン学会 理事
杉原病院 杉原 伸夫



11:40 ～ 12:00 統合医療とは 日本医療・環境オゾン学会 理事
かなめ会 要内科外科医院 要 明雄



お問合せ：〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8
摂南大学 理工学部 生命科学科 公衆衛生学研究室内
日本医療・環境オゾン学会事務局
Tel & Fax: 072-839-8084 Mail: nakamuro@lif.setsunan.ac.jp

主催：日本医療・環境オゾン学会
共催：ホリスティック・スペース・ジャパン (太地)
共催：医療法人 かなめ会 要外科内科医院



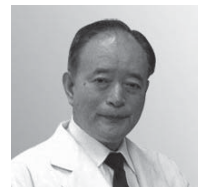
『「薬」や「手術」に頼らない医療・治療を考える』

～自然治癒力を高めて健康で豊かな生活を過ごしませんか？～

プログラム概要

オゾンの不思議な働きについて 日本医療・環境オゾン学会 理事 臨床研究部会 部会長 日下診療所 日下 史章

オゾン療法は約100年前にドイツで生まれた治療です。最初は第1次世界大戦の戦場で負傷した兵士の命を破傷風やインフルエンザ、細菌性赤痢等の伝染病から守り、その真価を世界に示しました。まさに今のような医療施設も薬品も不足している災害現場を救うための治療です。東日本の被災地では正規の消毒剤ではないという理由で頑固な行政の壁に阻まれ、活躍の場が限られましたが、同年9月の台風12号による豪雨が紀伊半島を襲い、大洪水と山津波によって新宮市、田辺市本宮町、那智勝浦町等が大被害を受けました。その時、熊野速玉大社の崇敬者である大徳寺昭輝氏の所に同社の上野宮司から現場では消毒剤が不足しているとの緊急連絡が入りました。早速、消毒剤の代わりに、水と電気さえあれば誰でも簡単に消毒剤としても使用できるオゾン水をつくれる生成器を十数台、大社に奉納いたしました。すぐに神官達はみずからオゾン水生成器を背負い、足場の悪い山道を歩いて病人のいる家や避難所などを訪ねて大勢の被災者を救いました。また、宮司さんの計らいで行政の責任者である田岡市長や寺本町長にも直接、オゾン水生成器を手渡すことができ、地元の紀南新聞にもそのニュースが写真入りで報道されました。オゾンは太古より地球の生命体を守るためにつくられた大自然のエネルギーです。これを正しい方法で体に作用させると自然免疫力をたかめて万病を治す力があると考えられています。古代より聖地熊野の神は『水』の守護神であると伝承されています。そして神道ではすべてのケガレは水で洗い流すのがしきたりです。今回、熊野で起きた奇跡のような出来事はお役所ではなく住民から最も崇敬される熊野大社の神職達の気高い働きによるものでした。医療分野におけるオゾンの不思議な働きを紹介します。



交流磁気治療とオゾン療法 日本医療・環境オゾン学会 理事 阿蘇立野病院外科 上村 晋一

交流磁気治療は80有余年前に日本で開発された治療法で阿蘇立野病院においては、オゾン療法と共に統合医療の一翼を担っています。この交流磁気治療について臨床経験を若干の治験を交えて紹介すると共にオゾン療法、とくにオゾン水に関しても東北大震災時において経験した貴重な体験を紹介させて頂きたいと思います。



オゾン療法とプラセンタ療法 日本医療・環境オゾン学会 理事 杉原病院 杉原 伸夫

オゾン療法に用いるオゾンは3つの酸素原子が結びついた、分子式O₃という単一の物質であるに過ぎませんが、赤血球代謝の活性化、殺菌、創傷治療促進、免疫賦活、抗炎症作用など多様な薬理作用が見出されています。一方、胎盤(=プラセンタ)には三大栄養素のほかアミノ酸、ビタミン類、ミネラル類、酵素など多くの成分が含まれており、成分としてはオゾンとまったく次元の異なるものですが、ヒトに対する薬理作用は、オゾンの効果と一致するものが多い。プラセンタの紹介もかねて両者の併用例などを紹介させて頂きたいと思います。



統合医療とは 日本医療・環境オゾン学会 理事 かなめ会 要内科外科医院 要 明雄

オゾンは、医療をはじめ生活環境、災害時などに、正しく活用すれば極めて有益なものです。統合医療の一つとしてもオゾン療法は有力な武器であり、治療対象は「がん」をはじめアトピー、アレルギー、慢性肝炎などのウイルス性疾患、高齢化に伴う疼痛性変性疾患など、ほぼ全身、全科わたっている。副作用は皆無に近いものです。当院は、「がん性疾患に対するオゾン療法」の研究成績を、本年2月、日本統合医療学会主催の「がん国際シンポジウム」において発表しました。また昨年のお地方の大洪水、災害時には、寄贈されたオゾン水生成装置が日常生活水の殺菌、消毒、消臭面などで著効があったことが喜ばれており、熊野速玉大社の上野宮司をはじめ、新宮市、那智勝浦町などの被災地区の市・町長らも、被災時の衛生対策として、オゾン・オゾン水の有用性を高く評価しています。予想される。東南海大地震における災害対策としては是非とも備えるべきものと思われま。当地方では、初めての今回のセミナーを通じて、医療をはじめ、健康増進、日常生活、地域の災害時対策としてもオゾンの活用を推奨したいと考えております。ホリスティック・スペース・ジャパンについても紹介いたします。

